

スマートフォン向けインセル型液晶タッチディスプレイを量産開始

シャープは、スマートフォン向けのインセル型液晶タッチディスプレイの量産を、本年6月から本格的に開始しました。

現在、一般的なスマートフォン向けの液晶タッチディスプレイには、液晶ディスプレイ上にタッチセンサー部を取り付けて一体化したものが採用されています。一方、インセル型液晶タッチディスプレイは、タッチセンサー部の機能を液晶ディスプレイに内蔵しているため、軽量化や薄型化が図れます。これにより、スマートフォンなどのデザイン性の向上に貢献します。

このたび量産を開始したインセル型液晶タッチディスプレイは、LTPS※¹ (CGシリコン※²) 技術を採用する三重第3工場生産。タッチセンサー部の回路と液晶ディスプレイを駆動する回路の両方を液晶ディスプレイの中に搭載することで、インセル化を実現しました。また、亀山第2工場での生産も検討中であり、この実現により、画面サイズや解像度、狭額縁化など様々なユーザーニーズに最適な対応を可能とするとともに、安定した供給体制の構築を図ります。

加えて、当社では亀山第2工場採用しているIGZO技術の優位性を活かし、タブレット端末やノートPCなどへの搭載を想定した、中型サイズのインセル型液晶タッチディスプレイを開発中です。本タッチディスプレイを搭載した商品の軽量化や薄型化を通じ、商品性の向上に貢献してまいります。

※¹ LTPS：低温ポリシリコン、Low-temperature Poly Siliconの略。

※² CGシリコン：Continuous Grain Siliconの略。
